



# よくわかる！たつのGIGAスクール構想

Global and Innovation Gateway for All 「全ての人に国際的で革新的な入り口を」

## たつの市 GIGA スクール

勉強をもっと楽しく  
学校生活をもっと豊かに  
自分の力をもっと伸ばそう

- ☆学びを深めるために使います
- ☆ルールを守って使います
- ☆人の嫌がることを絶対にしません

令和 5 年度版  
たつの市教育委員会  
小中一貫教育推進課  
0791-64-3020

GIGA スクール構想	たつの GIGA スクール	ステップ 1 ” すぐにでも ” どの教科でも ” 誰でも ”	ステップ 2 教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る	ステップ 3 教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす
<p>OECD（経済協力開発機構）が行った学習到達度調査によると、日本の子どもたちは「読解力の低下」と同時に、情報を収集し、整理・分析する等の情報活用能力が低下している傾向があるとのこと。ゲームやチャットなどでは活用できるが、学習の中では ICT を上手に活用できていないことや、活用できる環境が学校にはないということが現状でした。その環境を整え、子どもたちの学びを変えていこうというのが GIGA スクールです。</p>	<p>たつの市基本目標 ひとつづくりへの挑戦 ～学都たつのの輝きと歴史・文化が薫るまち～</p> <p>めざすところ ◎豊かな人間性を育み、創造力あふれる子どもを育てる</p> <p>取組 ◇個に応じた効果的な活用 ◇情報活用能力の育成 ◇主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ◇学びの環境整備（1人1台端末、ネット環境など）</p> <p>これまでの教育実践 × ICT = ・学習活動の一層の充実 ・主体的・対話的で深い学びの視点をもちた授業実践</p> <p>GIGA スクール構想 ・1人1台端末 ・高速大容量のネットワーク ・クラウド活用</p> <p>令和の時代の学びへ 端末を、えんぴつやノートなどの文房具と照らして、指示がなくとも、いつでも、必要な時に、自分で使う</p> <p>ステップ3 教科の学びをつなぐ ステップ2 教科の学びを深める ステップ1 どの教科でも活用する ステップ0 使ってみる 慣れる (学習ドリル 検索 文字入力 連絡など)</p> <p>【活用を支える土台】 学級経営、学習規律など 学びに向かう姿勢</p>	<p>ステップ 1 “すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも” 活かせる1人1台端末</p> <p>例えば...</p> <p>検索サイトを活用した調べ学習 - 一人一人が情報を検索し、新聞記事や動画等を収集・整理する - 子供たち自身が、アクセスした様々な情報の真偽を確認・判断する</p> <p>文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用 - 子供たち一人一人が自分自身の考えをまとめて共有する - 共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合う</p> <p>一斉学習の場面で活用 - 定理や史実等のイメージを持ちやすくなるデジタル教材を提示する - 一人一人の反応や考えを即時に把握しながら、双方向的に授業を進める</p> <p>一人一人の学習状況に応じた個別学習 - 学習者用デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化する - 特別な支援を必要とするなど様々な特徴を持った子供たちに対して、よききめ細やかな対応を行う</p>	<p>ステップ 2 : 教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。</p> <p>例えば...</p> <p>国語 書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる - 文章作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言し合う - 文章作成ソフトの機能活用を促し、データを共有する</p> <p>理科 観察、実験を行い、動画等を使って深く分析・考察する - 観察、実験を動画等で記録することで、現象を科学的に分析し、考察を深める - 観察、実験レポートやプレゼンテーション資料などを、写真やグラフを挿入するなどして、一人一人が主体的に作成する</p> <p>社会 国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する - 各科目で集めたデータや図表を組み合わせ、情報を組み合わせ、分析した情報を、プレゼンソフトでわかりやすく加工して発表する</p> <p>算数・数学 関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する - 数直線上に表した二次関数のグラフについて、式の値を変化させて動かしながら、二次関数の特徴を考察する - 正多角形の基本的な性質をもとに、プログラムを書いて正多角形の作成を行う</p> <p>外国語 海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、児童生徒の発信力を高める - 一人一人が海外の児童生徒とつながり、英語で交流・議論を行う - ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、児童生徒のアウトプットの質を大幅に高める</p>	<p>ステップ 3 : 教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。</p> <p>ICTを含む様々なツールを駆使して、各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育</p> <p>探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用することができる</p> <p>探究のプロセス</p> <p>課題の設定 実社会の問題状況に即した課題、課題や教科等横断的な課題を設定 情報の収集 文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等 整理・分析 資料による分類、思考ツール、テキストマイニング等で分析 まとめ・表現 論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、発表等で発表</p> <p>経済産業省「未来の教室」実証事業の取組</p> <p>産業学校×IoT/ロボティクス/プログラミングのSTEAMプログラム 産業学校において、生徒が見つけた課題の解決を促すべく、立案を促す仕組み、算数やプログラミングの課題を、身体表現をつなぐ学びを実現する</p> <p>体育（タグラグビー）×プログラミング×運動のSTEAMプログラム タグラグビーの実践と、模したAIゲームによる課題立案を促す仕組み、算数やプログラミングの課題を、身体表現をつなぐ学びを実現する</p>
<p>これからの GIGA スクール構想のめざすこと 端末活用の「試行錯誤」から「日常化」のフェーズへ、そして「学びの DX の実現」</p> <p>学びの DX…デジタル技術を活用した学びの変革</p>				
<p>Chromebook</p> <p>ChromeOS を搭載したノート PC です。インターネットに接続してクラウドサービスを利用することが前提です。 Google Workspace を活用します。</p> <p>文書作成、テレビ会議など様々な機能があり、子どもの学びをサポートするものです。 ☆考えを共有し、多様な意見に触れる「協働学習」や双方向型の「一斉授業」、学習状況に応じた「個別学習」が実現できます。</p>	<p>貸与するもの</p> <p>たつの市から児童生徒に次のものを貸与します。大切に使用するよう、指導してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Chromebook</li> <li>○ タッチペン</li> <li>○ 持ち帰り用カバン</li> <li>○ 持ち帰り用 AC 充電器</li> </ul> <p>それぞれ、小学校の卒業、中学校の卒業まで同じものを使います。不具合や故障については、市で対応しますが、故意又は重大な過失により破損・紛失した場合は、原則保護者負担をお願いしています。</p>	<p>アカウント</p> <p>アカウントとは、スマホやパソコンを利用してインターネット上の様々なサービスにログインするための権利のことです。</p> <p>GIGA スクール≒1人1アカウント 同じロッカーを使うイメージ</p> <p>☆使う権利…アカウント ☆使う場所…ID ☆使う鍵…パスワード</p> <p>アカウントは、教職員、児童生徒に 1 人 1 アカウントを配布します。 他者に利用させてはいけません。</p>	<p>ID とパスワード</p> <p>児童生徒 ID は小学 1 年生から中学 3 年生まで同じものを使います。 パスワードは、保護者が決め、家庭と学校で保管します。初回ログイン時に仮のパスワードでログインし、ログイン後に保護者が決めたパスワードに変更します。原則として、パスワードを変更しませんが、変更の必要がある場合は小中一貫教育推進課まで連絡して下さい。</p> <p>【Google アカウント】 ID ○○○○○○@city.tatsuno.hyogo.jp</p> <p>1人1人違います。 市内、どれも同じです。</p>	<p>Next GIGA に向けて</p> <p>たつの市では、児童生徒に 1 人 1 台のタブレット端末が整備されて 3 年目に入りました。1 年目は、” とにかく使う 慣れる ” から始まり、2 年目、3 年目は、” 教科の学びを深め、つなぐ ” ことをテーマに、端末の活用を進めています。これらの段階を経て、今後は、児童生徒が教科等の中で、自ら最適な学び方を選び、他者と関わりながら協働的に学ぶことを目指し、さらなる端末の活用を推進していきます。</p> <p>【たつの GIGA スクール構想】</p> <p>ステップ 4 最適な学び方を自ら選び、教科等の学びをつなげ、深める</p> <p>ステップ 5 主体的に最適な学び方を自ら選ぶことと、他者と関わりながら協働的に学ぶことを一体として実現する</p>